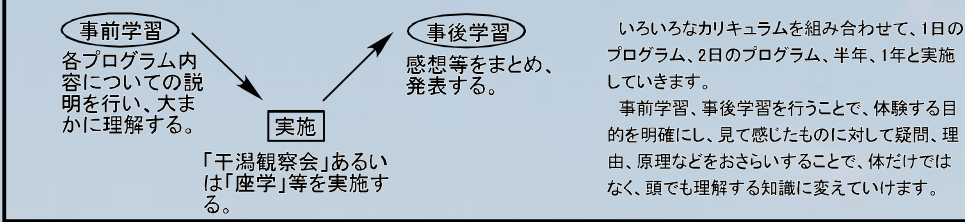


## プログラムについての基本的な流れ



干潟は陸と海との境に位置し、その両方の影響を強く受けるだけではなく、人間活動の影響を最も受けやすい場所です。また、きわめて多くの生きものが住んでおり、それぞれの生きものが様々な微小環境に適応して生活している生物多様性の高い場所でもあります。自然観察において最も楽しく、驚きに満ちているのは、自然の「多様さ」に直に触れることで、そのことは環境教育においても非常に重要な要素です。その意味でも干潟はすばらしいフィールドであり、様々な生きものを通して、人と自然の関わり方を学び、干潟を持続的に利用し、後世に引き継いで行くには何が必要か、という思考を育むには絶好の場所と考えています。

そこで沖縄県では、泡瀬地区人工島の活用に当たり、泡瀬干潟を中心とした泡瀬地区での環境学習を実施しています。

## はじめての干潟観察会

目的: 干潟に興味を持つことを大きな目的としています。

内容: 多くの予備知識を与えずに干潟に入ります(現場の確認)。干潟には様々な環境(砂州・転石帯・岩場・藻場など)があり、そこには様々な生きものが住んでいることを観察します。

対象: 初心者向けです。



干潟観察会の様子



参加者がまとめたワークシート

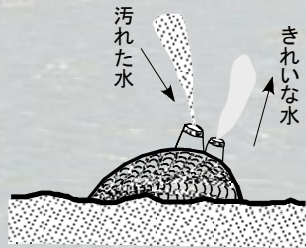


## 座学「アサリの浄化作用」

目的: 生きもの同士がどのような関わりを持っているのかを知ることが目的としています。

内容: 干潟の大きな役割である水の浄化作用について、アサリを用いた実験で、陸から流れてきた汚れた水が干潟によってどのように浄化されているのかを学習します。

対象: 初心者向けです。観察会とセットで実施することが望ましいです。



干潟の浄化作用についての説明



アサリを用いた実験の様子

## テーマを持った干潟観察会

目的: 「はじめての観察会」や座学で持った疑問や興味をもとにグループ毎にテーマを決め、より深く干潟について学習することを目的としています。

内容: 方形枠(50cm×50cm)を用い、砂州や転石帯といった様々な環境下で、詳しく観察し、記録を取ることで、環境の違いによって、そこに住む生きものの違いを認識することができるようになります。

対象: 干潟についての知識が少しある人。小学校高学年以上。



方形枠を用いた観察



参加者がまとめたワークシート



オキナワハクセンシオマネキ



カサノリ

## ナマコの観察

目的: 観察が容易なナマコを用い、干潟の浄化作用について考えることを目的としています。

内容: 干潟で最も目につくもののひとつがナマコです。ナマコは体色や形態も様々なので、観察するには手軽な生きものです。また、ナマコが何を食べているのか? また糞の様子、ナマコがいる場所の様子から、ナマコが果たす浄化機能などについても考えることができます。

対象: 初心者向けです。



手軽に観察できるナマコ

## 微環境の違いを観察

目的: 干潟には様々な微環境があることを実際に体験することを目的としています。

内容: 転石帯、砂州、海藻場、海草藻場など、干潟の中でも様々な微環境があることを体験し、その微環境にどのような生きものがすんでいるかを観察します。

対象: 初心者向けです。



様々な微環境での観察

ここにご紹介した個々のカリキュラムは1日のプログラムとして実施可能ですが、組み合わせ次第では、半年間あるいは一年間と、継続して実施することができます。また、ご紹介できなかったカリキュラムもいろいろあります。実際に環境学習を行う場合の計画策定から干潟観察会・座学の実施、観察会後のまとめ方などについては、「平成18年度泡瀬小学校環境学習実施報告書(東部海浜開発局計画調整課)」に具体的に示しており、その簡略版として「平成18年度泡瀬小学校環境学習実施報告書(概要版)(東部海浜開発局計画調整課)」も用意しています。また、干潟観察会や座学の際に利用できるワークシート一式、参考資料等も用意しています。

泡瀬干潟を利用した環境学習に興味を持たれた方は、

まずは、裏面の〈お問い合わせ先〉までご連絡ください。